

## 第 21 回 日 本 人 口 学 会 大 会

第21回日本人口学会大会は、昭和44年5月31日、6月1日の両日、東京の国立公衆衛生院（大講堂）において、一般来聴者も含めて150名を越える参会者を得、盛会裏に開催された。研究発表会およびシンポジウムにおいて行なわれた報告題目および報告者を掲げると次のごとくである。

第1日（5月31日）

### ○研究発表

- |   |                                     |  |                                   |
|---|-------------------------------------|--|-----------------------------------|
| 1 | わが国における避妊リングの実態                     | 荻野博                                    | (公衛院)                             |
| 2 | 出生順位別特殊出生率の動向について                   | 青木尚雄                                   | (人口研)                             |
| 3 | 日本における出生年次別年齢別の累積死亡率はどのように変遷して来ているか | 飯淵康雄                                   | (大阪大)                             |
| 4 | デルター曲線の再検討                          | 丸山博                                    | (大阪大)                             |
| 5 | 宗門改人別帳による人口学的研究                     | 安江 倍 弘毅<br>江崎 夫 次<br>矢野 邦 次<br>中 尾 泰 博 | (久留米大)<br>( " )<br>( " )<br>( " ) |
| 6 | 保健指標、特に死亡現象に対する人口構成の影響              | 山坂 本 幹<br>坂 田 清 夫                      | (順天堂大)<br>( " )                   |
| 7 | 出生死亡平行説に関する批判的研究                    | 曾木 田 長<br>木 村 正 宗                      | (公衛院)<br>( " )                    |
| 8 | 人口再生産の地域構造における変化                    | 館高 橋 辰 稔                               | (人口研)<br>( " )                    |

### ○シンポジウム

- |     |            |        |       |
|-----|------------|--------|-------|
| 1   | 出生をめぐる諸問題  | 座長 館 稔 | (人口研) |
| (1) | わが国出生力の現状  | 小林和正   | (人口研) |
| (2) | 出生抑制の要因分析  | 久保秀史   | (公衛院) |
| (3) | 出生抑制の遺伝的影響 | 松永英    | (遺伝研) |

第2日（6月1日）

### ○研究発表

- |    |   |                     |                 |
|----|---|---------------------|-----------------|
| 9  | ファミリーサイクルのモデルの作成                        | 伊藤 秋 子<br>新 垣 都代子   | (お茶水大)<br>(琉球大) |
| 10 | 「山村」の人口流出について                           | 三国一義                | (富山大)           |
| 11 | わが国農業労働力移動量の決定について                      | 高木尚文                | (成城大)           |
| 12 | 最近における人口移動の推移                           | 岡崎陽一                | (人口研)           |
| 13 | 日本のモデル生命表<br>一 国連方式による男女込みの生命表作成を通じての検討 | 飯尾 晃 一<br>広 岡 桂 二 郎 | (日経セ)<br>(慶応大)  |
| 14 | 日本のモデル生命表一年代との関連において                    | 安川 正 彬<br>広 岡 桂 二 郎 | (慶応大)<br>( " )  |
| 15 | 産業別就業人口の推計                              | 仮谷 太 一<br>雑 賀 晋     | (岡山理大)<br>(岡山県) |
| 16 | 韓国人口の将来推計—1960~80—                      | 石 南 国               | (函館大)           |

### ○特別講演

- |              |        |         |
|--------------|--------|---------|
| 社会学における人口の問題 | 富田 富士雄 | (関東学院大) |
|--------------|--------|---------|

### ○シンポジウム

- |   |            |            |       |
|---|------------|------------|-------|
| 2 | 過疎地域人口の量と質 | 座長 曾 田 長 宗 | (公衛院) |
|---|------------|------------|-------|

- (1) 過疎化の人口学的過程と問題点……………黒田俊夫(人口研)  
 (2) 経済発展過程と人口過疎……………鈴木啓祐(流通経大)  
 (3) 過疎地域人口移動の社会生物学的考察……………柳沢文徳(医歯大)  
 追加発言……………東田敏夫(関西医大)

## 太平洋学術協会マレーシア中間会議

太平洋学術協会マレーシア中間会議 (Pacific Science Association Malaysian Inter-Congress Conference) が1969年5月5日から9日までマレーシアのクアラルンプルに在るマラヤ大学 (University of Malaya) において開催され、日本からは朝永振一郎協会会長、日高一郎終身会員、檜山義夫東京大学教授、渡辺光お茶の水女子大学教授(地理常置委員会委員長)、柿内覧信東京大学教授、正井泰雄お茶の水女子大学助教授等14名が参加した。本研究所の人口移動部長黒田俊夫技官もこれに参加した。

第11回太平洋学術会議(東京)において新設された人口常置委員会では、委員長の I. B. Taeuber のほか、Saw Swee-Hock (General Chairman, マレーシア), R. K. Anderson (Population Council, アメリカ), Y. N. Guzevatyi (Senior Research Worker, the Institute of World Economics and International Relations, the Academy of Sciences of the U. S. S. R.), F. H. A. G. Zwart (South Pacific Commission, Noumea, New Caledonia), 黒田俊夫 (Co-chairman) の6名であった。当初出席が予定されていたオーストラリアの Norma McArthur は都合で参加できなかった。

議事は次のごとくであるが、5日(月曜)から9日までの審議において、8日(木)は Malaysian Family Planning Board と Department of Statistics における討議に当てられた。

- (1) 太平洋地域における人口と人口科学, 太平洋学術協会と人口常置委員会の役割
- (2) 太平洋の諸問題の研究における諸科学の相互関係, 協力, 太平洋学術協会内における常置委員会の関係
- (3) 太平洋地域における文化, 社会変動と人口転換——歴史的, 現状, 将来
- (4) 研究開発の分野

(イ)太平洋諸島における人口学的ルネサンス, (ロ)東南アジアにおける多様性と発展, (ハ)大陸中国人口研究の諸問題と可能性, (ニ)太平洋地域の研究のアプローチ

今回の会議の成果を列記すると次のごとくである。

- (1) 第12回キャンベラ会議(1971年)における人口シンポジウム(「西太平洋諸国における出生力低下」と「西南太平洋諸島の人口ダイナミクスと人口の将来」の2個)の提案, 第13回会議(1976年, カナダのバンクーバーにほぼ決定)における北太平洋人口を取り上げることが内定した。
- (2) トイバー委員長の異常な努力によってソ連の積極的参加が実現した。
- (3) 人口常置委員会は, その常置委員会としての役割を十分に果たすことができた。

(黒田俊夫記)

## エカフェ主催・国内地域の人口推計に関する作業グループ

ECAFE 主催の下に, 1969年5月14日から23日まで, タイ国バンコクにおいて, Working Group on Projections of Populations of Sub-National Areas の会議が開かれた。セイロン, 台湾, インド, イラン, 日本, 韓国, マレーシア, ニュージーランド, フィリピン, タイの10か国から10名の専門家が参加し,